

西東京市公民館市民企画事業

福島原発事故でわたしたちが経験したこと



福島原発被害東京訴訟原告

語り手 **鴨下美和**さん

語り手 鴨下さんは福島第一原発事故で福島県いわき市から東京へ、家族5人で避難。避難元が避難指示区域外のため支援や賠償から外されて苦難の日々を送る。住民を守らない国の原子力政策を追求と、被害に見合った賠償を求めて裁判の原告となる。伊方原発運転差止訴訟において避難者の立場から法廷で被害を証言、ジュネーブ国連人権理事会でも被害を伝えるなど活動が続けている。

事故後14年を経た今、事故についても忘れられようとしている。わたしたちは被害者の声に耳を傾け改めて反原発の思いを新たにしたいと思う。みなさんも是非聞いて下さい！

鴨下さん講話のあとにしとうきょう市民放射能測定所あるびれおの共同代表で小児科医の山田真さんとの対談を予定。山田さんは原発事故のあと「子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク」代表として現地で「健康相談」に携わり多くの被災者に耳を傾けてきた。

語り手：鴨下美和（かもしたみわ）さん

●日時 **2026年3月7日（土）**
14:00～16:30 （開場 13:30）

●場所 **田無公民館 視聴覚室(3階)**
西東京市南町 5-6-11(田無駅南口より徒歩3分)

●定員 **50名** 先着順・申込不要

●資料代など **100円** 高校生以下無料

●お問い合わせ先 佐藤 ☎090-2907-0551(18時-21時)



■共催：放射能測定を考える会・西東京 西東京市公民館

放射能測定を考える会・西東京

にしとうきょう市民放射能測定所あるびれお

「放射能測定を考える会」はあるびれおの会員有志が結成した市民グループで、公民館を拠点に公開講座・勉強会などを開催しています。

「あるびれお」は原発事故の翌年(2012年7月)内部被ばくを心配し、食品を中心に市民のちからで測定活動を開始しました。

「放射能測定を考える会」

公民館市民企画事業を活用し、公開講座を実施。放射能・内部被ばく・原発などをテーマに市民とともに学び・考えています。

「あるびれお」共同代表・小児科医である山田真さんに子どもの健康に関するテーマで講座なども開催しています。

子どものいのちと未来のために原発のない社会を目指し、放射性物質の地球上へのバラまきをなくしたいです。

測る 考える つながる
子どもたちのいのちと未来のために

「あるびれお」

事故後10数年、政府は原発帰政策を打ち出しました。老朽化した原発の再稼働など地震大国日本にキケン！次の事故の危険をはらんでいます。

環境汚染を知ること、土壌や山菜・キノコ・筍などの放射能測定をはじめました。

側溝の土壌から1500ベクレルを超える数値がでています。

放射性物質セシウム137は土ほこりに付着し、雨水に溶け移動、半減期30年です。

「みんなのデータサイト(市民放射能測定所のネットワーク)」とも連携しています。

にしとうきょう市民放射能測定所あるびれお <http://west-tokyo-albireo.com>

放射能測定を考える会・西東京 (連絡先) 佐藤 ☎090-2907-0551(18時~21時)